



第 10 号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2009 年 10 月 11 日

- ・ 聖なるサレジオ会宣教師たちに目を向けよう！
- ・ ヴィンチェンツォ・チマッティ神父：聖なる宣教師
- ・ チマッティ神父の手紙より
- ・ 宣教 Mission ad Gentes は活力のしるし
- ・ サレジオ会の宣教の 10 月の意向

聖なるサレジオ会宣教師たちに目を向けよう！

宣教師の皆さん、宣教促進にたずさわる会員、サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

宣教するサレジオ家族に目を向けるとき、宣教師たちの中にあらゆる身分の人がいたことがわかります。サレジアン・コオペラトリー(神の僕アッティリオ・ジョルダニ、†1972 年)、自国の宣教師であったサレジオ会修道士(神の僕シモーネ・スルジ、†1946 年)、サレジアン・シスターズ(神の僕マリア・トロンカッティ、†1969 年)、サレジオ会司祭(福者ルイジ・ヴァリアラ、†1923 年、尊者ルドルフォ・コモレク、†1949 年、尊者ヴィンチェンツォ・チマッティ、†1965、神の僕アンジェイ・マチェン、†1999)、そしてサレジオ会の殉教者たち(聖ルイジ・ヴェルシリアとカリスト・カラヴァリオ、†1930)です。一方、サレジオの宣教の最初の実りも見出せます。福者セフェリーノ・ナムクラ(†1905)、福者ラウラ・ヴィクニャ(†1904)らです。私たちはどうでしょうか？ 私たちにとって、各管区に与えられた聖なる宣教師たちという生きた模範に触発されることは、たいへん意味深いことです！ 彼らのプロフィール、体験、証言を、カリエロ 11 を通して分かち合えることを期待しています。

宣教促進の最良の方法の一つは、聖なるサレジオ会宣教師たちのことを、その原動力や生き方と共に、人々に知らせることです。サレジオ家族の 160 人に及ぶ聖人、福者、尊者、神の僕のうち、32 名がサレジオ会員宣教師です。

どうぞ彼らについて知り、そして知らせてください。彼らのあかし、書き残したものの、宣教の創造性が、尊い宝のように今日もインスピレーションの源となるように。

2009 年に派遣された新たな宣教師たち皆のためにどうぞ祈ってください。彼らはトリノの扶助者聖母大聖堂で十字架を受けました。また、識別の過程を歩んでいる、あるいは派遣に向けて準備している 70 名の候補者たちのためにも祈ってください。

最良の宣教師は聖人である(ヨハネ・パウロ二世『救い主の使命』92) と、私たちは知っているのですから！

宣教顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父



第 140 回宣教師派遣で派遣された会員たち

ヴィンチェンツォ・チマッティ神父：聖なる宣教師

ヴィンチェンツォ・チマッティは 1879 年 7 月 15 日、父ジャコモ、母ローザ・パシの 7 人の子どもの末っ子として生まれました。長生した 3 人のうち、いつくしみの病院姉妹会会員となった姉、シスター・マリア・ラッファエッラは列福されています。サレジオ会修道士として宣教師になった兄ルイジは、ラテン・アメリカで聖性の香りのうちに生涯を終え、ヴィンチェンツォは尊者になっています。

ヴィンチェンツォが 3 歳のとき、一家は父親を亡くしました。母はドン・ボスコが説教をしに来た教会にヴィンチェンツォを連れて行き、言いました。「ごらんヴィンチェンツォ、ドン・ボスコをごらん！」ヴィンチェンツォは、いつくしみに満ちた老司祭の顔を生涯忘れることはありませんでした。17 歳でサレジオ会員になったヴィンチェンツォはトリノ・ヴァルサリチェに送られ、そこで教鞭を執り、また学業を修めました。パルマ音楽院の作曲の学位、トリノ大学の農学、哲学、教育学の学位を取得しました。

24 歳のとき、司祭に叙階されました。彼は 20 年にわたって教鞭を執り、優れた作曲の才を発揮しました。何世代もの神学生が彼から学んでいます。その間、彼は総長に願い続けました。「どこか最も貧しく、最も困難で、最も打ち捨てられた宣教地に私の働き口を見つけてください。安楽は一切いりません。」

彼の願いは 46 歳になったときになえられました！ ドン・リナルディは、日本にサレジオ会を創設するグループの長上として彼を派遣したのです。ヴィンチェンツォは 40 年間、日本で働きました。彼はドン・ボスコのように出版や音楽の使徒職にたずさわりながら、その慈愛あふれる人柄で日本人の心を射止めました。あらゆるたいへんな犠牲に事欠くことのなかった戦争の時代の後、東京に養護施設を創設し、260名の孤児を受け入れ、初等・中等教育、技術訓練を提供しました。1949年、70歳のとき、調布の哲学・神学院の院長に就任し、さらに 10 年間務めました。

チマッティ神父は 1965 年 10 月 6 日、サレジオ家族の皆に慕われながら亡くなりました。1977 年に掘り起こされたチマッティ神父の遺体は、腐敗していない完全な状態が確認され、現在、調布の地下聖堂に安置されています。

ルイジ・ダルフィオール神学生にあてた ヴィンチェンツォ・チマッティ神父の手紙 (1938 年 3 月 4 日)

……我がルイジ、勇気を出しなさい。主に対して寛大でありなさい、主が自分に寛大であることを望むなら。全面的な献身：身も心も：そしてドン・ボスコと共に。ドン・ボスコはあなたのため、人々のために働いてくれます。

イエスがあなたを最後まで *usque in finem* ご自分のものとして保ってくださいよう、私は願います。そして、あなたが知らせてくれたように (グリゴレット・ドン神父様も知らせてくれました) 病気を患うあなたの気の毒なご兄弟を、あなたが助けることができるように。私はあなたの近くにいらませんが、愛情と祈りでもってより近くにいることをわかってくれるでしょう。

それ故に幸いを祈ります。私のために祈ってください。21 日は聖ベネディクトの祝日です：“*ora et labora*” は、ドン・ボスコの「仕事は祈りである」と実によく似ています。あなたを抱擁し、祝福します……



若いサレジオ会員とサッカーに興じるチマッティ神父



宣教 Mission ad Gentes は活力のしるし

2009 年の宣教の日にあたり、ベネディクト十六世は再び強調しました。「教会は、権力を拡張したり、支配を確保したりするために働くのではなく、世の救いであるキリストをすべての人のもとに運ぶために働くのです。」なぜなら、「現代の人々に福音を告げる努力は……キリスト者共同体への、また人類全体への奉仕です。分散化、多様性、対立、敵意などに苦しむ人類への奉仕なのです。」

教皇は言います。「教会の使命は、すべての民族の人々に希望を“感染させる”こと」であり、「キリストは神の国を告げるよう弟子たちを呼び、聖別し、派遣されます。すべての国・民族の人々が神の民となるためです。……世界に遣わされる使命は、教会の生活における基本的な、変わらない要素となるべきです。使徒パウロにとってそうであったように、福音を告げることは私たちにとって第一の、差し迫った務めでなければなりません。」

「したがって、教会の使命は、受肉された御子を通して神が成し遂げられた救いへと、すべての人を招くことです。そのため、私たちの福音を告げる決意を新たにする必要があります。福音は自由と進歩、兄弟愛、一致と平和のパン種です (Ad gentes, 8 参照)。私は『すべての人に福音を告げる務めは、教会の本質的使命であることを確認』 (福音宣教 14) します。……宣教への促しは、常に私たちの教会の活力のしるしでした (救い主の使命 2 参照)。」結論として教皇は、「福音宣教は聖霊のみわざである」ことを再確認し、カトリック信徒に呼びかけます。「聖霊が、神の国を広める使命への教会の情熱を強めてくださるよう祈りましょう。」



2009 年 10 月 サレジオ会の宣教の意向

≪第 140 回宣教派遣で派遣されたサレジオ会員、サレジアン・シスターズ、信徒ボランティアが、新しい管区での新たな宣教の任務によく適応できますように。福音宣教に全面的に献身する彼らの模範が、サレジオ会員のうちに新たな宣教の召命を目覚めさせますように。≫

2009 年 9 月 27 日、扶助者聖母大聖堂から、新たな宣教師のグループがヨーロッパ、ラテン・アメリカ、アフリカ、アジアへと派遣されました。宣教師たちは 25 の管区の出身者です。彼らの模範がすべての管区にとって、「宣教の精神を促し、総長には『*missio ad gentes*』のために人材を寛大に提供し、信徒 (協働者) や家庭からも宣教師の召命を促進する」(GC26, 49) 助けになるよう祈ります。

